日本作業療法士協会　海外研修助成制度
実績報告書

訪 問 日 程：2023 年 9 月 2 日～8 日
施　設　名：メルボルン大学・ロイヤルメルボルン病院
所　在　地：Parkville, Melbourne, Victoria 3010, Australia
氏　　名：澤村　大輔
所　　属：北海道大学大学院保健科学研究院
会 員 番 号：27887
所 属 士 会：北海道

1.　施設訪問の内容

本訪問は、メルボルン大学に所属する研究者および関連病院に所属する作業療法士との連携による日豪の高齢者支援に関する国際共同研究の推進を前提としたものであり、国際社会に貢献できる重要なニーズおよび高齢者ケアの実践に繋がる研究シーズを見つけ出すことを目的としたものである。本訪問では、以前より交流のあるメルボルン大学所属の研究者に支援いただき、事前のスケジュール調整のもとでメルボルン大学構内の見学、メルボルン大学医学歯学保健学部の先生方とのミーティングおよび研究室見学、または大学関連病院の見学をさせていただき、今後の国際共同研究を進めるうえでの情報収集を行い、問題点の抽出および今後の課題について共同研究者と情報を共有することができた。また、自身が所属する北海道大学保健科学研究院とメルボルン大学医学・歯学・保健学部との学術交流に関する部局レベルの国際交流協定締結の場にも参加し、メルボルン大学医学、歯学、保健学部の首脳陣との交流を深めることができ、更なる研究協力の可能性についても話し合うことができた。さらに、メルボルン大学医学・歯学・保健学部主催のセミナーおよび Florey Institute of Neuroscience and Mental Health 主催のセミナーで 2 度の講演講師を務めた。メルボルン大学医学歯学保健学部主催のセミナーでは、昨年度に開催した「高齢者支援における多職種連携」をテーマにした国際合同シンポジウムの実績や現在進行中である国際共同研究の進捗および今後の協働についての展望をお話させていただいた。Florey Institute of Neuroscience and Mental Health 主催のセミナーでは、「Cognitive neuroscience and rehabilitation - striving towards the development of effective assessment and intervention strategies.」というテーマで、これまでの行ってきた自身の研究紹介および今後の展望についてお話させていただいた。本訪問は、自身の国際性を涵養する貴重な機会となり、新たな研究者、臨床家とのネットワーク形成にも繋がった。今後はこの経験を通して得られたネットワークなどを活かし、国際共同研究を推進すると共に研修会や国際シンポジウムなどを開催することで高齢者支援に携わる作業療法士やその他

のリハビリテーション関連職種、研究者、またこの分野で将来の活躍が期待される大学院生、学部生の国際交流の機会の創設を考えている。また、所属組織の全学的な教育研究力強化、国際化にも貢献できるものと考えている。

2.　施設訪問の成果

本訪問の成果としては、1）メルボルン大学に所属する研究者および関連病院に所属する保健医療職種とのネットワークの強化および新規のネットワーク形成、2）国際共同研究の推進における環境整備と問題点・今後の課題についての情報共有、3）学術交流に関する部局間交流強化、4）日豪の協働により発展が期待される多くの芽があることの確認、が挙げられる。

1）メルボルン大学に所属する研究者および関連病院に所属する保健医療職種とのネットワークの強化および新規のネットワーク形成

本訪問では、メルボルン大学所属の研究者に支援いただき、濃密なスケジュールで訪問日程を組んでいた。メルボルン大学構内の見学では、医学・歯学・保健学部のなかでも特にリハビリテーション、または神経科学領域、生体医工学領域の先生方の研究室見学、授業見学をさせていただいた。非常に充実した研究・臨床・教育現場を確認することができ、またいきいきと高いモチベーションで授業や研究活動に勤しむ学部生、大学院生をみて感動を覚えた。また、ロイヤルメルボルン病院だけでなく、大学構内にクリニックが点在しており、研究と臨床をシームレスに行える環境が整っていることも魅力的であった。病院・クリニックの見学では、リハビリテーション関連職種の先生方のご説明を受けながら、日本との共通店や相違点などを情報共有させていただき、お互いの国の保健医療制度、勤務体制、保健施設における環境・設備、職種ごとの専門性の違いなどについて理解を深めることができた。さらに、メルボルン大学医学・歯学・保健学部の先生方とのミーティングでは、全学、または部局における組織の概要、実績、さらにリハビリテーション関連学部の学部長より学部紹介があり、今後の国際交流の発展に向けた重要な情報をいただくことができた。

今回の訪問では、メルボルン大学医学・歯学・保健学部主催のセミナーおよびFlorey Institute of Neuroscience and Mental Health主催のセミナーで2度の講演講師を務めさせていただいた。これにより、多くの研究者、リハビリテーション関連職種の方々にご参加いただき、私たちの取り組みについて知っていただき、組織の理解が得られる貴重な機会となったように思っている。100名程度の参加があり、発表後にもいくつかの質問をいただいた。

これらの機会を通してこれまで交流のあった研究者、作業療法士とのネットワークの強化および新たなネットワークを形成することができた。

2）国際共同研究の推進における環境整備と問題点・今後の課題についての情報共有

研究室見学および病院・クリニックの見学を通し、データ収集およびデータ解析環境について直接目で見て確認することができ、解決すべき今後の課題を抽出することができた。特に、日豪の地域在住高齢者を対象とした研究のデータ収集にあたり環境整備の必要性や健康状態評価の指標の選定についての重要な情報を取得することができた。また、経済的な影響による2か国間における必要となる研究経費の違い（被験者謝金、設備利用料、会場費など）も明確となり、より現実的な検討が行えたように思っている。

現在進行中である国際共同研究については、今回の前向き縦断研究の開始に先立ち、前準備として収集したデータのほうについては論文化を進めていく。既に日本でのデータ収集および解析を終えており、今回の訪問ではその内容についても議論することができた。今後は、査読付き国際誌への論文投稿を考えている。

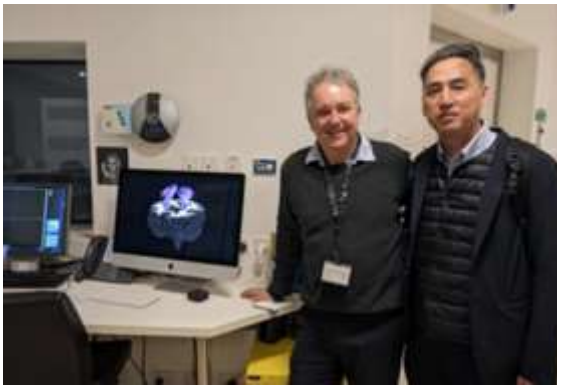
3) 学術交流に関する部局間交流強化

今回の訪問では、自身の所属する北海道大学保健科学研究院とメルボルン大学医学・歯学・保健学部との学術交流に関する部局レベルの国際交流協定締結の場にも参加させていただき、メルボルン大学医学、歯学、保健学部の首脳陣との交流を深めることができた。その際には、国際共同研究の推進だけでなく、2国間の共修環境の整備や交換留学など大学院生、学部生の国際交流の機会の創設について意見交換ができ、より発展的かつ実効的な国際交流に繋がる機会をいただけた。この得られた成果は、本学が毎年夏季に海外で活躍する研究者を招へいし、協働で授業を行う「Hokkaido サマー・インスティテュート（HSI)」（社会人受講生も募集）で還元していきたいと考えている。

4) 日豪の協働により発展が期待される多くの芽があることの確認

研究面では、国際共同研究の推進により、文化的な背景や人種による遺伝的背景を考慮した健康増進に関する知見が得られることが期待される。これは、国際社会への発信に向けたダイバーシティへの対応を保障するものとしても重要である．高齢者支援という側面では、世界一の長寿大国である日本は，フロントランナーとして世界の高齢化を乗り切るための方策を発信していく必要があると考える．また、積極的な産学連携による研究の推進においては見習うべき点がたくさんあるように思われ、今後の課題として積極的に挑戦していきたいと考えている。

臨床面では、日本とは保健医療制度が異なり、入院期間は短く、ほとんどの作業療法士が地域のクリニックや施設で活躍されるか、また開業されているとのことをうかがった。今後、国際化の進展考えると、日本とは異なる保健医療制度のなかでどのように作業療法士が活躍されているのかを把握することは、将来的に世界で活躍することを目指す学生、または国際社会への発信に向けて研究に取り組む研究者、臨床家にとっても重要な情報となる。今後は彼らとの協働によりその共通点や相違点についての理解を深めることのできる機会（授業の開講や研修会の開催）の創出を図っていく。

教育面では、国際交流の場を積極的に提供することにより、異文化理解力の向上、語学力・コミュニケーション能力の向上を促進し、世界の課題解決に資するグローバル人材の育成に貢献できるものと考えている。また、所属組織の教育研究力の強化および国際化の牽引にも繋がるものと考えている。

3. 訪問で得られた資料